

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	桜が丘クリニック 放課後等デイサービス さくらんぼくらぶ (単位3)		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の特性に合わせた支援を実施している。	身体状況や各々の特性の把握に努めそれに応じた支援を検討し、個別支援に取り組んでいる。	事業所だけでなく、家庭や学校とも連携強化に努め継続して支援の充実を図っていきたい。
2	医療的ケア児の積極的な受け入れ	医療的ケアを必要としている方が安心して利用できる体制を整えている。	職員（特に看護師）の研修する機会をしっかりと確保し、人材育成を行っていく。
3	様々な活動を実施している。	月案を基に日々様々な活動に取り組むことができている。重症心身障がい児の方も参加できる活動に取り組んでいる。	マンネリ化しないようにする。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族交流の不足	家族とのコミュニケーションは積極的に取っているが、コロナの流行後交流会を実施できていない。	交流会の実施を検討していく。
2	地域交流の不足	コロナ流行前は地域のイベントに参加できていない。	地域のイベントの参加を検討していくとともに積極的に地域の場での活動する機会を設けていく。
3	PR不足	事業所内で実施している活動、研修、避難訓練などの報告が不足している。	SNS等、おたより、連絡帳を活用していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 さくらんぼくらぶ

公表日 令和8年3月31日

利用児童数

回収数 3

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	<input type="radio"/>					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		感染症を心配する保護者がいらっしゃるため行っていません。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	<input type="radio"/>					今一度、丁寧に説明するよう徹底する。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	<input type="radio"/>					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		今後検討していきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	<input type="radio"/>					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		保護者会の開催は行った。次年度兄弟児等家族で参加できるイベントを立案中。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	<input type="radio"/>					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○					LINEを導入し、意思の疎通や情報伝達が行いやすくなった。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○					毎月写真を送っている。また、定期的な通信の発行、HP、インスタ等を更新している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○					訓練の実際の様子、各マニュアルに準じた研修の様子などSNSで発信している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○					細かなことまですぐに報告している。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○			○		
	29	事業所の支援に満足していますか。	○					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		さくらんぼくらぶ				公表日	令和8年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		就業時間中に月2回研修する場を設けている。また、外部研修にも参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼にて徹底している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼で徹底している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		○		たまに複数日分まとめて記録を取ることがあるため改善していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		主として重症心身障がい児を対象としているため完璧ではないが、本人の意思をこちらがなるべくくみ取れるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		特に医療と学校と連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		感染症の問題で心配される保護者がいらっしやるため交流は行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		今後検討していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		特に送迎時に伝達している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後検討していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		場合によっては家庭訪問も行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会を開いた。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月写真を送ったり、インスタやHPの更新、定期的な通信の発行を行った。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		次年度行う計画を立案中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				

事業所名

さくらんぼくらぶ(単位3)

## 支援プログラム(参考様式)

作成日

R7年

4月

1日

法人(事業所)理念		「いつでも どこでも 誰とでも 楽しくすごす子どもたち」を目指します。								
支援方針		日常生活上での必要な介助、および機能訓練を行い、お子さんが自分でできる事を増やしていけるよう支援していきます。集団活動において、お子さんが社会のルールやマナーを習得できるような支援を心がけています。ひとりでも多くのお子さんに楽しい時間を過ごしていただけるよう、保育士と看護師が共にケアを行っています。								
営業時間		9時	00分	から	17時	00分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	全身状態の観察、健康管理を行い、体調に変化が見られる際は、早急に対処を行います。 吸引、痙攣発作の観察、酸素管理など必要な対応を行います。 姿勢を工夫し排痰・排尿を促します。								
	運動・感覚	活動を通して身体機能の維持・向上を図ります。また、姿勢のバリエーションや運動を促します。 機能訓練担当職員の介入により筋力維持、ストレッチ、マッサージ、側弯予防などを図ります。								
	認知・行動	様々な活動に参加したり関わりを受けたりしながら、色々な感覚刺激を行います。 刺激に対する反応を確認しながら、興味関心を確認していきます。 心理士の介入により感覚統合を図ります。								
	言語 コミュニケーション	利用者に合ったコミュニケーションツールを用いて相互理解を図ります。 喜怒哀楽などの意志表示をより明確にできるよう関わって行きます。また、表情や反応を観察し、本人が表出する要求方法が強化できるように努めます。								
	人間関係 社会性	集団活動の中でお友達と関わる時間を増やしていきます。 個別では心理士を中心にいろいろな経験を積み重ねていきます。(要求等を引き出していきます)								
家族支援		保護者の就労やレスパイトなど心身の状態に応じた関わりなど、必要に応じて相談を受け助言を行います。				移行支援		特に学部が変わる時期にスムーズに移行できるように必要な情報を提供し進路などを確認します。		
地域支援・地域連携		利用者の関わりのある機関と連絡を相互に行い、どんな場所でも安定した状態で過ごせるようにします。				職員の質の向上		月2回の職員研修や外部研修へ参加し職員の質を向上させ、利用者へ還元します。		
主な行事等		1月：初詣・書初め 2月：節分 3月：ひなまつり・花見 4月：進級式 5月：鯉のぼり 6月：紫陽花 7月：夏祭り 8月：夏祭り 9月：遠足 10月：ハロウィン 11月：遠足 12月：クリスマス会								